



大和 合同会社
YAMATO LLC



インド入門講座 - インドは“グローバル”の道場だ -
Aug 2020

大阪産業局ビジネスサポートデスク (インド)

大和 倫之, 大和合同会社 - 今、やっていること



やったことないこと・いったことないところを求めて興味本位で世界を巡った後、2010年頃より“インド熱”発症中。シンガポールより、2016年に移住

インドネタ講演

- お誘い・入門講座: インドは“グローバル”の道場だ!
- 経営への活かし方: インドでイノベーション!
- 市場戦略: インドでシェアを獲る

インドでの“試行錯誤”の支援

- 初めの一步: Tap to India! (出張・研修・インターン)
- 敷居を下げる: バーチャル駐在員
- 本業比率を高める: バーチャルCMO/ CIO/ CFO
- R&D・市場トライアル: インドでイノベーション!
- 高度人材採用プログラム: Recruiting Millennials

インド現地向け・インドから第三国へ

- 高度人材向け技術研修&インターン (ベラルーシ・シンガポール。。。)
- 輸出入貿易 (重機・電子機器・化粧品・玩具・農薬・各種技術。。。)
- 講演・講義・パネル・寄稿・コメント・メンター・取材対象・雑談相手。。。)



今のインドを知るコラム
“JUGAADのススメ”

*JUGAAD= 直面する障害・制約を創意工夫で乗り越えようとするインドの精神・考え方。目的を簡潔に捉え、現実解を手早く重ねて成功を導くやり方

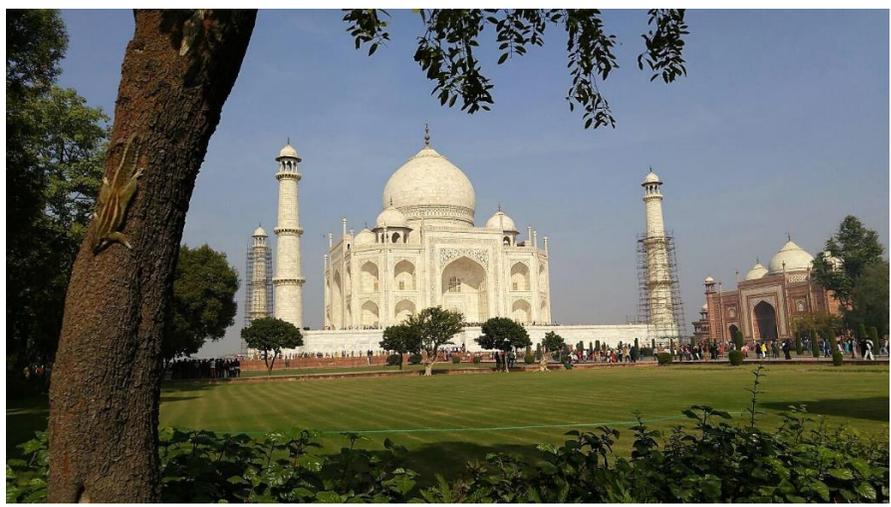
インド・ベンガルールにて、日本企業とインド人材が協業する初の機会を 発案・企画・進行（経済産業省アイディアソン・2019年1月）





何を期待すべきか？…初めの一步が、その後の“期待”を大きく変える

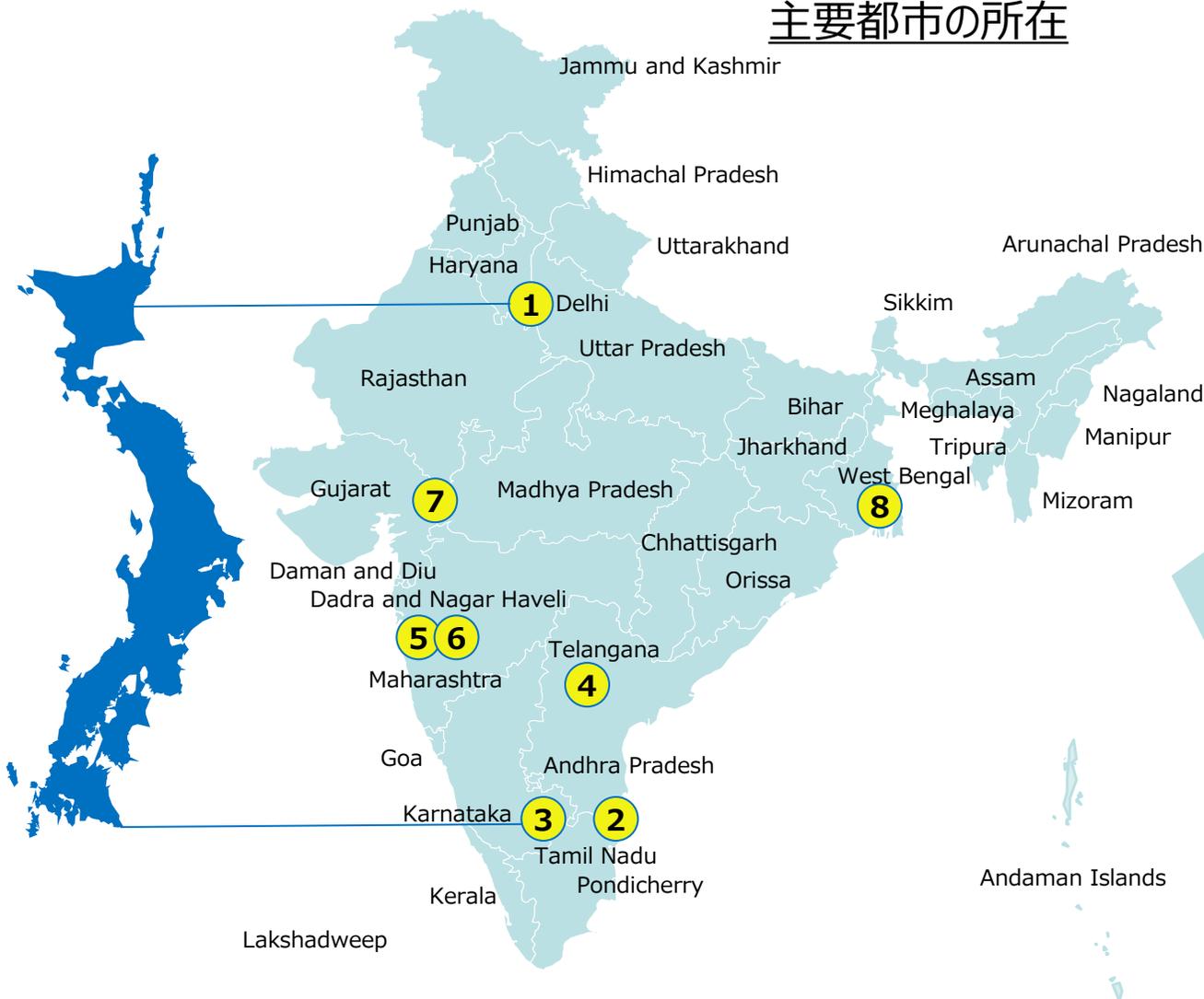
“インド”のイメージ？



日本とはケタチガイの大きさと複雑さ。しかも、常に変わり続けている…



主要都市の所在



1. Delhi NCR – デリー首都圏
2. Chennai – チェンナイ
3. Bengaluru – ベンガルール
4. Hyderabad – ハイデラバード
5. Mumbai – ムンバイ
6. Pune – プネ
7. Ahmedabad – アーメダバード
8. Kolkata – コルカタ

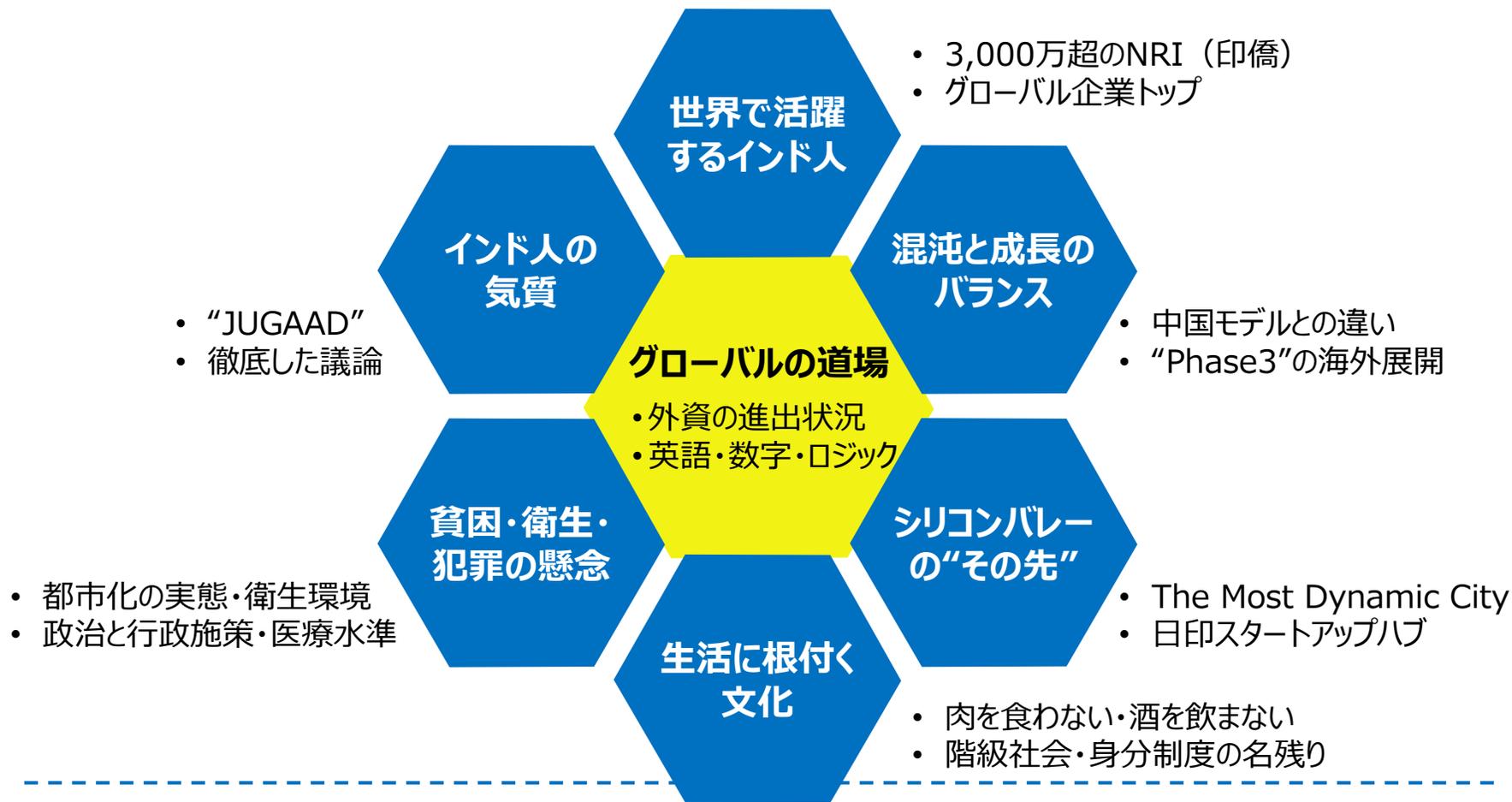
< 想像力が試される世界 >

- **ケタチガイの規模**
 - 人口13億人 (vs.1.2億人)
 - 国土面積は日本の9倍...デリー/ベンガルールは空路2.5時間/1,700km
- **ケタチガイの複雑性**
 - 行政州30超・公用語22 (民族100超・言語2000超) ...8大都市でも1割未満
 - 個人の自由さと社会の成り立ち
- **ダイナミックな変化**
 - 平均年齢25歳 (vs.46歳)
 - Covid前はGDP5%成長、2ケタ成長の業界もザラ...世界で最もダイナミックな都市 (WEF, 2019) の上位5都市中4都市がインド



なぜ“グローバルの道場”なのか？

“今のインド”を理解する視点



多彩に広がる伝統的なインド：“80km行けば全てが変わる” 歴史・民族・言語・食事・慣習



“本業”に辿り着くまでの、ひと仕事・ふた仕事をどう理解してこなせるか

インドにおける“仕事”の中身？

日本からの
事前の期待

- 出張の目的・駐在員の使命
- 予定と計画、成果の見積もり
- 業務終了後のお楽しみ予定

防ぎようのない
五感への刺激

根本が異なる
標準プロトコル

言った者勝ち・
聞いたら負け

理解レベルへの
理解が必要

食事はむしろ
苦行でもある

一日を無事に
終える努力

想定外の、
甘受するし
かない現実

街中に溢れる
スパイスの香り
目にも耳にも
猥雑な環境
ざらざら、ぐちゃ
ぐちゃ。。

日本の作法など
知る由もない
統一的な作法が
あるわけでもない
全てはその時・
その場の一発芸

言わなくても察す
る、ことはない
“OK”と言ったら、
あとは相手都合
先手必勝、自ら
の要求を明確に

首を横に振るの
はOKの意味
言ったことの9割
は伝わらない
伝わっても事が
起こると限らない

口に入れるもの
で冒険はしない
スパイスと油は旅
の終盤に“来る”
酒が飲める場所
も機会も要注意

部屋まで続く些
細な障害の数々
エアコン・騒音・
水回り。。
クレームは概ね
徒労に終わる

現地での
本来業務

聞いてた話とは違う実態、思い通り進まない現実、成果への不安・不満。。

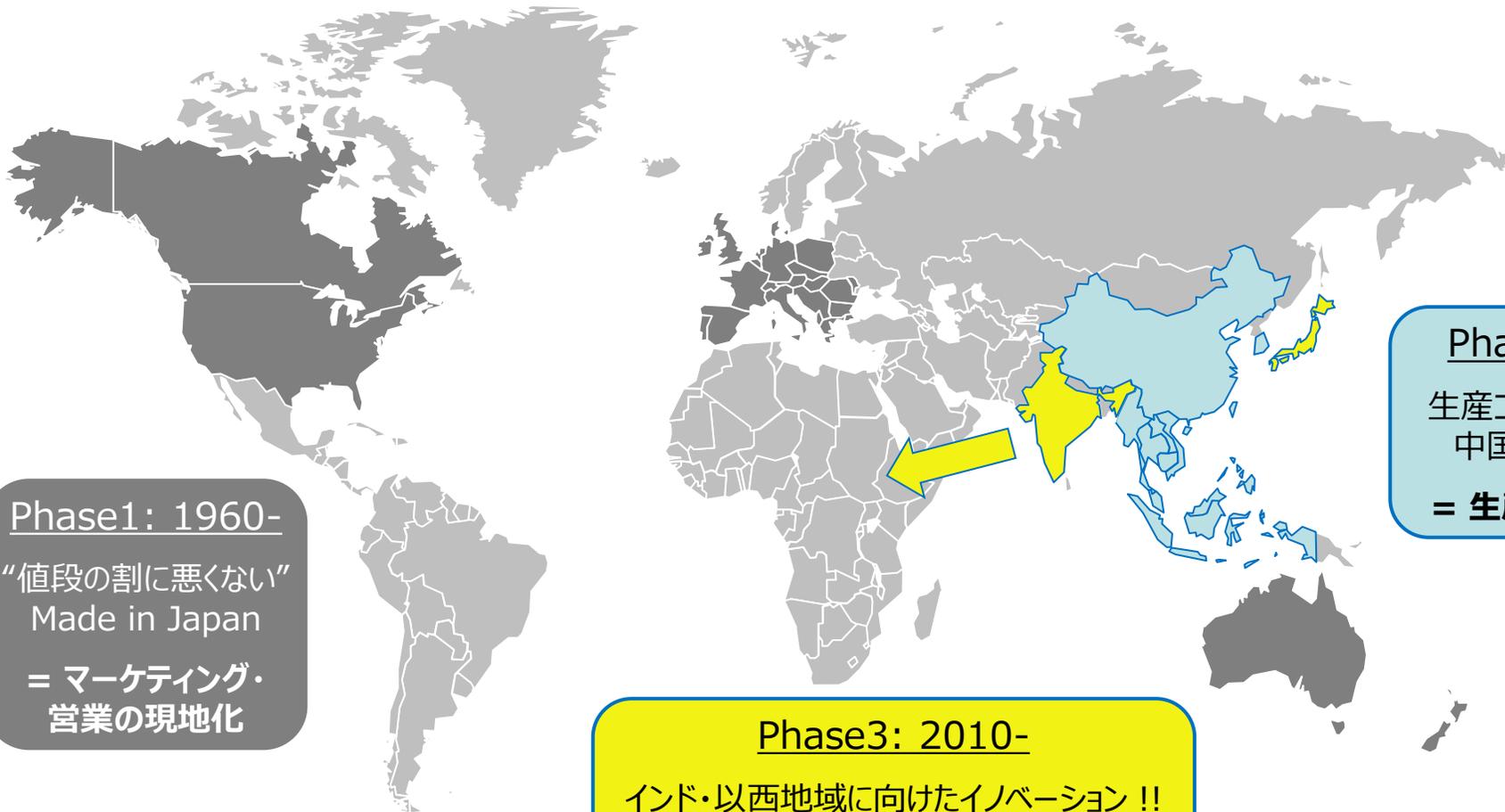
時間の感覚、“約束”の意味、折衝・交渉の面倒臭さ、やる気の問題。。

魅惑のインド市場？



“中国・ASEANの先”にはないインドへは、新たな一歩が求められる

日本企業のグローバル化



Phase1: 1960-

“値段の割に悪くない”
Made in Japan

= マーケティング・
営業の現地化

Phase2: 1980-

生産コスト低減のための
中国・ASEAN展開

= 生産・調達の現地化

Phase3: 2010-

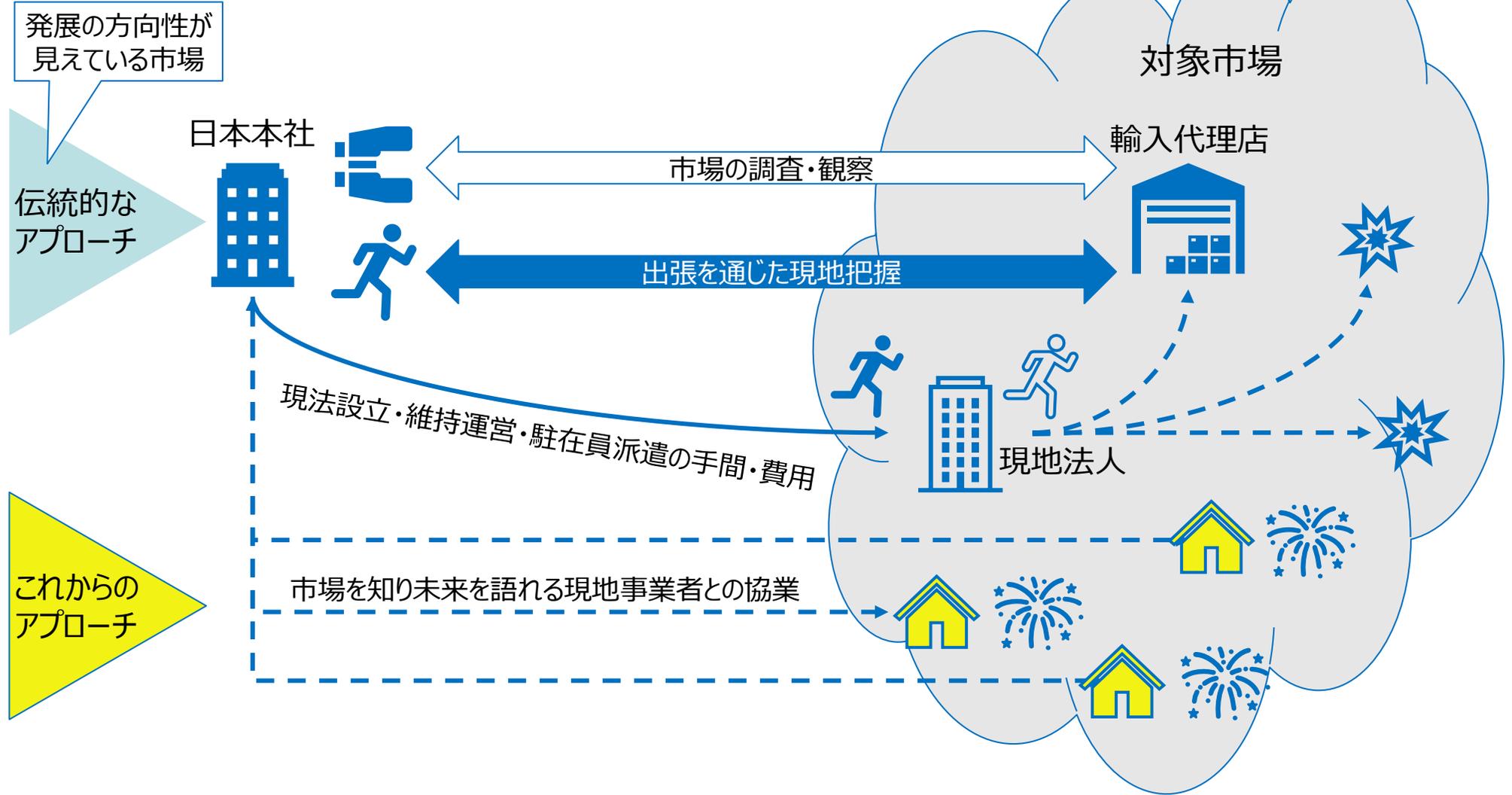
インド・以西地域に向けたイノベーション !!

= R&D + 生産・調達 + マーケティング・
営業の現地化 ?



成功の方程式は(まだ)ない。現地事業者と協業するのが近道

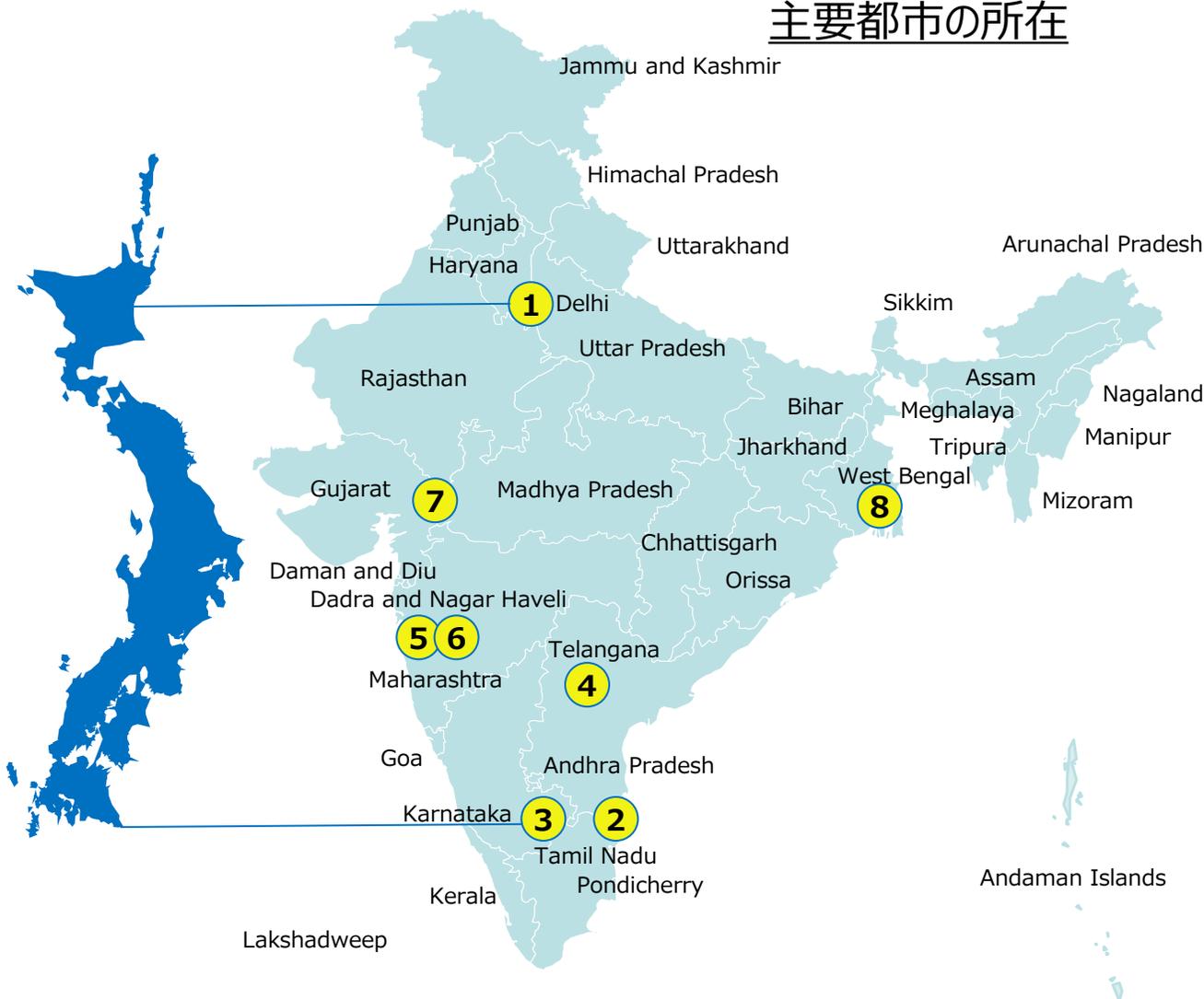
Phase3における市場アプローチ





さて、どこから何を始めましょうか？

主要都市の所在



1. Delhi NCR – デリー首都圏
 - 政治の中心・日本企業も最多
 - 新興都市Gurgaon/ Noida
2. Chennai – チェンナイ
 - 日系製造業も集積する港町
 - 多宗教が混在する保守的文化
3. Bengaluru – ベンガルール
 - イノベーションハブ・ITの集積地
 - デカン高原南端・インドの軽井沢
4. Hyderabad – ハイデラバード
 - ITの集積地・日本支援のIIT-H
 - 暑い！辛い！
5. Mumbai – ムンバイ
 - 金融・貿易を中心とする商都・港町
 - 半島先端の旧都市と広がる都市圏
6. Pune – プネ
 - 製造業が集積・日本語教育も
 - 高原の工業・学園都市
7. Ahmedabad – アーメダバード
 - Modi首相お膝元・新幹線の起点
 - 暑くて乾燥したDry State(禁酒州)
8. Kolkata – コルカタ
 - 旧首都・“東インド会社”設立地
 - “インドのイメージ”に近い街並み？



大和合同会社 代表 大和倫之
Tomoyuki YAMATO, WORLD1 Group

080-3153-4506 (LINE) / +91 7022418256 (Whatsapp)
india@yamato.llc / tomoyuki.yamato@gmail.com
連載コラム “JUGAADのススメ”: note.com/yamato_jugaad

Bengaluru / Gurgaon HQ / Nashik / Vijayawada /
Tokyo, Japan / Minsk, Belarus / Windhoek, Namibia / Singapore

公益財団法人 大阪産業局 ビジネスサポートデスク (インド)
一般社団法人 グリーンカラー・プラネット インド代表
インド日本商工会 (デリー) / バンガロール日本商工会
Electronics and Computer Software Export Promotion Council
日本輸出入者標準コード / Import Export Code, India 取得